

お別れの週が始まりました

校長 武井 正明

門出の日に相応しい、早春の空になった。

吉田高校の卒業式に、一年ぶりに来賓として出席させていただいた。

今回は前回と違って、在校生の中に私が知っている吉中卒業生がいる。元気に頑張っていたらどうか。どんな一年だったらどうか。あれから一年…。光陰矢の如し、だ。

卒業生代表の、飾らない答辞が強く印象に残った。卒業生退場の曲は、私の大好きな玉置浩二の「ファンファーレ」だった。拍手も、思わず強くなる。曲が終わり、最後の卒業生が会場を後にしていった。しっとりした、いい式だった。

学校に戻ると給食の時間だった。先日は撮れなかった3年生の教室へ急ぐ。

卒業直前の、何とも慌ただしいような、寂しいような、残りの時間を惜しんでいるような雰囲気、各教室から洩れ出てくる。

昼休み、先週は来客が多く、約束していたのに行けなかった1体へ。元気いっぱいの彼と、いつものようにバスケをして遊ぶ。でも実はもうこれが、彼との最後の昼休み。考えただけで切なくなるので、いつものように遊んで、いつものように「またね」で終わった。

6限は同窓会入会式。今年もこの年度末のご多用な中、7名の役員の皆様が来校してくださった。

新たに仲間に加えていただく186名の中から、学級代表の自己紹介があった。

そして山本悦郎会長から、ご挨拶をいただいた。

話題は今週末から始まるWBCの主役、大谷翔平が薦める本について、だった。

会長は、親しみやすい話題を通して「苦しいことがあっても、そこから逃げずに修業を積むことが人生、人生は日々修行だよ」という、温かいエールを下さったのだと思う。



こうした「節目の儀式」を経て、またひとつ君たちは、大人の階段を上っていく…。

今、卒業式に向け作成中の式辞を何度も読み返す。読みながら、何度もお別れをしているような気持ちになる。

君たちから楽しい思い出をいっぱい貰ったと、改めて思う。

本当に君たちとの中学生生活が、終わってしまうんだね…。明日は公立一般入試。全力で最後まで諦めずに、頑張れーっ!!